

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護援助論Ⅰ		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
東福寺 愛実 他	401	narumi.tofukuji	金曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	この科目では、一般の乳幼児の日常生活援助はもとより、健康障害の子どもとはどのような状態にあるかを理解する。さらに疾病を与える子どもの身体的、精神的、社会的及び成長発達への影響、家族への影響について考える。また、子どもとその家族に向けた適切な看護援助の在り方を考えるとともに、基礎的な小児看護実践能力を修得することを目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	この授業では、小児看護学概論で学んだ子どもの成長発達上の特徴と小児看護の基本となる理念等の知識が必要となるため、小児看護学概論で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。また、授業で学んだ内容を必ず復習することを習慣にして欲しい。				
教科書	・系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院/2023 ・系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2023 [2冊指定]				
参考書	・ナースングラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023 ・ナースングラフィカ 小児看護学2 小児看護技術 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023 ・根拠と事故防止からみた小児看護技術 (第3版) /著:浅野みどり /医学書院 /2021 ・発達段階からみた小児看護過程 (第3版) /著:浅野みどり /医学書院 /2021 ・写真でわかる 小児看護技術 (第3版) /著:山元 恵子 /インターメディカ /2022				
外部教材	公益社団法人 日本看護協会 動画ポータル				
学生が達成すべき行動目標					
①	健康状態、発達段階に合わせた日常生活援助技術が理解できる。	NS(1)(3)			
②	健康状態を判断するアセスメント技術について小児の特徴をふまえた説明ができる。	NS(3)(4)			
③	急性期・周手術期にある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(3)(4)			
④	慢性期・終末期にある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(2)(3)			
⑤	障害のある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(2)(3)(4)			
⑥	子どもにとって安全・安楽な環境を整え、子どもが安心して治療やケアを受けるための技術が理解できる。	NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・病気に対する子どもの理解の特徴 ・病気や診療・入院が子どもにも与える影響と看護 ・子どもへの説明と同意 インフォームドアセント ・プレパレーション ・子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 	講義	小児看護概論で学んだ子どもの発達の過程(認知機能)について予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・症状を示す子どもの看護 不機嫌・啼泣・呼吸困難・チアノーゼ・痙攣・発熱 嘔吐・下痢・脱水・出血・発疹・黄疸 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みを表現している子どもと家族への看護 子どもの痛みの受け止め方、表現方法、客観的評価 ディストラクションの実際 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・活動制限が必要な子どもと家族への看護(発育性股関節形成不全) ・感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症をもつ子どもと家族の看護(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・急性胃腸炎) ・小児外来の特徴と役割 ・外来における子どもと家族への看護(気管支喘息、クループ症候群) 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
11~14	<ul style="list-style-type: none"> ・小児特有の診察(検査、処置)に伴う技術と看護 採血・採尿・輸液管理・与薬 ・演習:バイタルサイン測定、身体計測(身長・体重・頭圍)、採尿 	講義 演習	小児の看護技術について教科書で予習する。演習課題をレポートする。授業内容や演習で学んだ内容を整理しまとめる。		3
15・16	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を受けている子どもと家族への看護 ・災害を受けた子どもと家族への看護 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
17・18	<ul style="list-style-type: none"> ・急性症状のある子どもと家族への看護(急性気管支炎・肺炎 肥厚性幽門狭窄症、川崎病、腸重積症) 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2
19・20	<ul style="list-style-type: none"> ・周手術期における子どもと家族への看護(先天性心疾患 [ファロー四徴症、心房中隔欠損]、口唇口蓋裂 外鼻径ヘルニア 胆道閉鎖症) 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

21・22	<ul style="list-style-type: none"> ・出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護(低出生体重児、ヒルシスプルング病、鎖肛) ・先天性疾患をもつ子どもと家族への看護(ダウン症候群) 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2		
23・24	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護(二分脊椎、腹膜透析) ・慢性的な経過をとる疾患をもつ子どもと家族への看護(ネフローゼ症候群、溶連菌感染症後急性糸球体腎炎、I型糖尿病) 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2		
25・26	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害のある子どもと家族への看護(脳性まひ) ・子どもの死の理解と看護(急性リンパ性白血病) ・子どもと家族への緩和ケア 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2		
27・28	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命処置が必要な子どもと家族への看護(頭部外傷、熱中症、ショック、意識障害、転倒・転落) ・事故防止と安全教育 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		2		
29・30	まとめ	講義	1~28回の授業内容を復習する。		3		
試	定期試験：達成度評価、評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	15	0	0	5	100
総合力指標	知識・技術力	60	5	0	0	0	65
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	5	0	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	小児の看護援助の実際について、キーワードを駆使し、説明・記述ができる。知識60%、思考・推論・創造する力20%とする。定期試験期間に試験を実施する。				テスト終了後に、定期試験で正答率の低い問題や今後の学習ポイントについて書面で解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
演習およびレポート	①	✓	小児の看護援助技術の演習を通し、小児看護に必要な技術やコミュニケーション方法について説明・記述ができる。また記述することで、自身の課題を明確にすることができる。知識・技術力を5%、コミュニケーション力を5%、問題を発見・解決する力を5%とする。				添削後、定期試験前の授業時に返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
その他	①	✓	全体を通して、授業の出席状況・取り組みの姿勢・意欲を5%とする。				授業や演習中の取り組み姿勢について注意が必要な場合は、学生自身が気づけるように声掛けをおこなう。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	山本 富士子						
教 員 の 実 務 経 験	担当する看護教員は、看護師として実務経験が15年以上有したものが担当する。						
実践的授業の内容	小児の看護援助に必要な基本的知識および小児特有な看護技術について演習を通して理解する。学生個々が実践することで、気づきや学びが深まることが期待される。実際の小児看護の現場に必要な看護実践の知識・技術の修得を目指し、小児看護援助論Ⅱおよび小児看護学実習につなげる。						
そ の 他	・学習状況により、学習内容や順番が変更になる場合がある場合は講義内で説明をする。						